

8-4 安政南海地震の前の井水の減少

The Decrease of Well Water prior to the Ansei Nankai earthquake (1854, M 8.4)

京都大学防災研究所 地震予知研究センター

Research Center for Earthquake Prediction, Disaster Prevention Institute, Kyoto University

昭和南海地震の約1週間前から直前にかけて、紀伊半島から四国の太平洋沿岸の広い範囲で井戸水が減った、或いは涸れたという報告がある。南海地震の震源域・固着域等に関する最近の研究成果と異常が報告された井戸の地域的特徴を併せて考察することにより、新たな知見が得られつつある。地震前の地下水の異常現象が、果たして昭和南海地震以前の安政・宝永等の南海地震の前にも有ったか否かの、すなわち再現性の検証は、地震発生前の地下水異常のメカニズム解明或いはモデルの精緻化に寄与するであろう。例えば、「いなむらの火」で有名な浜口梧陵が安政地震当日のことを記した「安政元年海嘯の実況」に「午後村民二名馳せ来たり、井水の非常に減少せるを告ぐ。予之に由りて地異の將に起こらん事を懼る。果たして七つ時ごろ至り大振動あり」との記述がある。そこで、我々は更なる確証を得るために、2001年1月から地下水異常が報告されている和歌山・徳島・高知県下で、言い伝えや体験談の聞き取り及び郷土史(誌)・古文書・石碑等の調査を開始した。

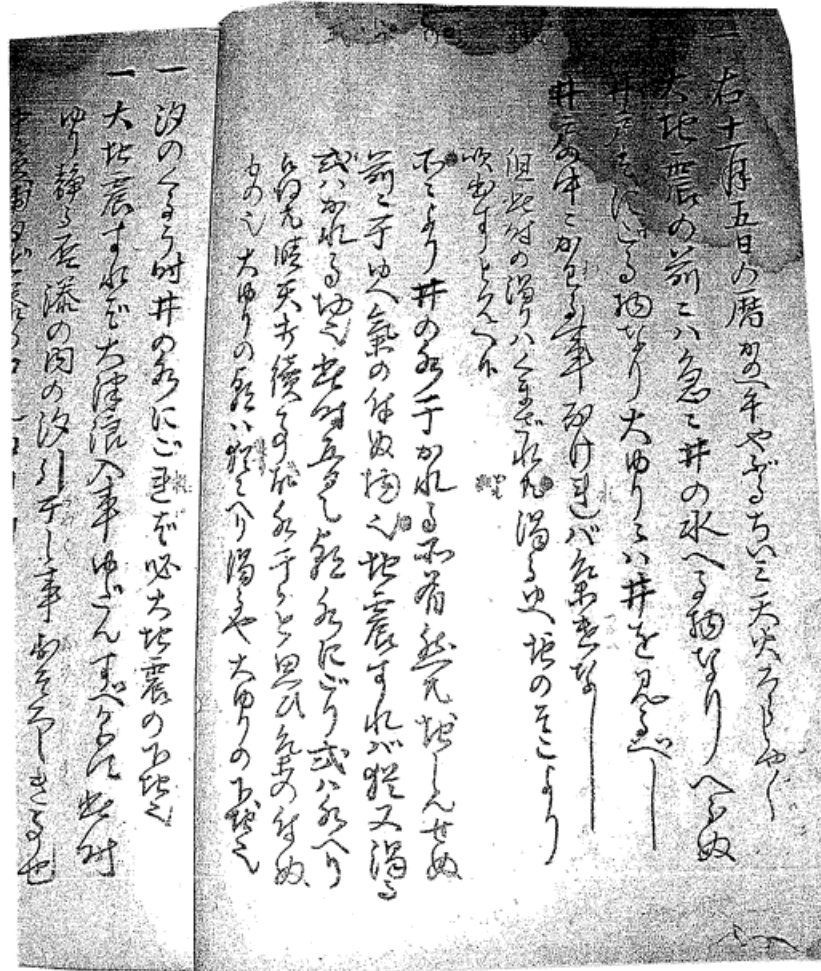
地震発生に伴う津波の前兆としての井戸水の減少・涸れ・濁りの記述は多数の史料にみられるが、明瞭に地震発生前の現象と判断できる記述は、今までのところ殆どみられていない。現時点での特筆すべき史料は、文政10年(1827年)土佐国幡多郡中ノ濱(現土佐清水市中浜)に生まれた池道之助が書き遺した「今昔大変記」のなかの「嘉永七年寅年地震津波記」である。そこには、「大地震の前には急に井の水へる物なり、へらぬ井戸は濁る物なり」、「然共(しかれども)地震せぬ前に干ゆえ気づかぬ物也」、「汐のくるう時井戸の水にごれば必大地震の下地なり」云々との記述がある。また、地震の犠牲者を供養するとともに、後世の人への警鐘とすべく、彼が建立した土佐清水市中浜峠にある池家の墓碑には、「前日ヨリ潮色にごり津波入並ニ井ノ水にごる或ハ干カレル所モ有」とある。但し、井戸水が減少した或いは涸れたのが具体的に何処どの井戸であったとの記述は無い。また、「前日ヨリ」の件りは、前日に発生した東海地震に伴う現象だった可能性もある。しかし、「大地震の前には急に井の水へるものなり」と断定的に記述していることは、例え言い伝えにせよ、少なくとも、それ以前にも似たような現象が有ったことを伺わせる。もとより、調査はいまだ緒に就いたばかりである。しかし、我々はこの調査を継続していけば、「南海地震前の井水涸れ」の記述に及ぶ、更に新たな資料を得ることができるものとの確信をもっている。(重富國宏)

参 考 文 献

- 1) 水路局：昭和21年南海大地震調査報告―地変及び被害編一、水路要報増刊号、1948
- 2) 杉村広太郎：浜口梧陵小傳、1943
- 3) 池道之助：今昔大変記(土佐清水市 池手津江氏所蔵)
- 4) 木村昌三・小松勝記：南海地震の碑を訪ねて、毎日新聞高知支局、2002
- 5) 土佐清水市史編纂委員会：土佐清水市史、土佐清水市、1980



A



B

第1図 安政南海地震前の井戸水の減少を記述する古文書
(池 道之助「今昔大変記」より)

A : 表紙 B : 「今昔大変記」のうち「嘉永七年寅年地震津波記」部分

Fig.1 The old document which the decrease of well water prior to the Ansei Nankai earthquake is described in.

A : The cover B : The page which the decrease of well water prior to the Earthquake is described in.

二行目から三行目にかけて「大地震の前ニハ急に井の水へる物なり
へらぬ井戸はに「る物なり 大ゆりニハ井を見るべし」とあり、
七行目からには「所ニより井の水干しかれる所有
然共（しかれども）地震せぬ前二千ゆへ気の付ぬ物也」とある。